

I 目的

大分県のキャリア教育について、現状を把握するとともに実践事例の収集及びその有用性を検討、周知することで、キャリア教育に関する県教育センターにおける研修の充実を図り、大分県の更なるキャリア教育の推進に資する。

II 結果

※1年次、2年次の調査研究結果を受け、本年度は研究協力校4校の児童生徒を対象にキャリア教育に関するアンケートを実施し、その結果を分析することで各校の取組の有用性を検討した。

1. 白杵南小学校の取組について

白杵南小学校では「キャリア教育推進計画」を策定し、年間カリキュラムに組み込んでいる。特に第6学年では「米づくり活動」「道徳教育」「環境教育」「卒業プロジェクト」を重点的に実施し、4つの力(自己理解・自己管理能力など)の育成をめざしている。アンケート結果では、第5・6学年で学校独自項目の数値が高く、キャリア教育の有用性が示された。記述回答では、体験活動を通して他者との協働の良さや学校独自の取組への誇りを感じる内容が増加しており、取組の有用性が示された。

2. 南中学校の取組について

南中学校では生徒の自己肯定感向上を目的に、キャリア教育を重点施策に位置付けている。職場体験や各教科でキャリア教育を意識した授業を展開し、地域や保護者と連携している。アンケート結果からは「将来の夢や目標」の項についての肯定的回答が56%→87%と向上しており、「ゲストティーチャー活動」や「炭活動」などの学校独自の取組の有用性が示された。加えて、「自己理解・自己管理能力」、「課題対応能力」に関する項目における肯定的回答が増加しており、教職員集団はもとより生徒や保護者、地域と一体となったキャリア教育の取組が一定の成果を上げていることがわかる結果となった。

3. 大分豊府中学校・大分豊府高等学校の取組について

中高連携を活かし、「高校生サポーター」「中高パネルディスカッション」を実施。学校独自のポートフォリオ作成や生徒会による「my way project」などでキャリア形成を支援。特に、休日講座「大分花園中学校」は、生徒の興味関心や自主性を軸とし、学ぶことの楽しさや多様な人材との出会いによって、職業観や将来の生き方についても視野を広げられる機会となっている。アンケート結果でも「将来の夢を持つ」が約7割、「職業への関心」が約8割と安定した成果をあげていることから、取組の有用性が示された。

4. 学年間・学校種間の連携について

白杵南小学校・南中学校では、小中一体教育の一環としてキャリアノートの円滑な引継ぎを行い、夏季休業中には夏季合同研修会を実施している。教職員が実践を交流し、情報共有を図ることで校種間連携を強化している。一方、大分豊府中学校・大分豊府高等学校では、中高一貫教育の特性を活かし、中学生は高校生をロールモデルとしてキャリア意識を高め、高校生は中学生との交流を通じて自らの目標を再確認する機会となっている。これらの取組により、小・中・高それぞれの連携が促進され、児童生徒がスムーズに次の学習段階へ移行できる環境が整えられている。

III まとめ

- ◎キャリア教育に関する実践事例を多く収集することができた。
- ◎当センターの研修においてキャリア教育研修を新設し、受講者のキャリア教育についての理解を図るための研修を行うことができた。
- ◎3年次の調査研究では、児童生徒の変容を見取り各校のキャリア教育の取組の有用性を検証することができた。

3年間の調査研究で得られた上記の成果をもとに、今後の当センターにおけるキャリア教育に関する研修の充実を図ることで、大分県のキャリア教育の更なる推進につなげていきたい。

